

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）はしばらくの間、中止させていただきます。

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『あたまとんとんたいたいたら』 中川ひろたか/作 ザ・キャビンカンパニー/絵 鈴木出版 2020.3 ¥1200

あたまとんとんたいたいたら？わっ、ハトが出た！ほっぺとんとんたいたいたら？おっと、ホットドッグがニョキッと！むねをとんとんたいたいたら？おなかとんとんたいたいたら？さあ、何が出てくるかな？からだをとんとんたいたってページをめくると、いろいろなものがでてきちゃう、あっと驚く奇想天外な世界。カラフルで楽しくて元気いっぱい絵本。ジェスチャーしながら読むと楽しさ倍増。

<絵本-5, 6歳から>

『かなへび』 竹中銭/ぶん 石森愛彦/え 福音館書店 2020.4 ¥900

かなへびは、茶色の体に長いしっぽが特徴のとかげの仲間。からすやいたちなど、敵に襲われた時には、自らしっぽを切りはなし、相手の気をそらして逃げ、やがてしっぽは再生する。かなへびの赤ちゃんは卵から生まれるとすぐに独り立ちして、おとなと同じ生活をはじめ。そんなかなへびの生態をわかりやすく紹介。月刊科学絵本「かがくのとも」2015年発行のハードカバー版。

『どんなふうに見えるの？』 林木林/作 はたこうしろう/絵 鈴木出版 2020.3 ¥1300

草の上に大の字になったら、地球をおんぶしてるみたいに見えるかな？どこまでもどこまでも走ったら、地球で玉乗りしてるみたいに見えるかな？まっすぐに逆立ちになったら…お空の雲さん、ぼくは今どんな風に見えるの？スケールの大きい、明るくはつらつとした絵が詩の内容にぴったり。林木林の作詞、小林亜星の作曲による「どんなふうに見えるの？」の楽譜を巻末に掲載。

<絵本-小学校低学年から>

『ランカ にほんにやってきたおんなのこ』 野呂きくえ/さく 松成真理子/え 偕成社 2020.4 ¥1300

遠い国からきて、日本の小学校に通いはじめた10歳の女の子、ランカ。言葉もわからず文字も読めない。日本の学校はわからないことだらけ。ある日、木登りをしようとするランカに、クラスメイトの男の子が大きな声で何か言い、こわい顔で足をひっぱってくる。泣き出すランカだったが…。言葉が通じなくても、一生懸命心を通わせようとする子どもたちの姿が印象的。優しい色彩の絵本。

『ママはかいぞく』 カリーヌ・シュリュグ/ぶん レミ・サイヤール/え やまもとともこ/やく 光文社 2020.3 ¥1500

僕のママは海賊なんだ。船の名前は「カニなんてへっちゃらごう」。もう何か月前から宝の島をめざして、仲間とその船で旅をしている。ママは闘いでできた傷も僕にみせてくれた。航海から帰ってくると、ママは疲れ切っているみたいだった…。作者自らが乳がんを患った経験をもとに、闘病のことを子どもにきちんと伝えようと、がんと闘いを海賊にみたてて描いたフランスの絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『虫ガール ほんとうにあったおはなし』 ソフィア・スペンサー/文 マーガレット・マクナマラ/文 ケラスコエット/絵 福本友美子/訳 岩崎書店 2020.4 ¥1500

ソフィアは2歳半の時から虫に夢中。幼稚園では、虫が好きでも何の問題もなかった。でも1年生になって、みんなから、からかわれるようになった。落ちこんでいるソフィアをみかねたママは、昆虫学者のグループにメールを送り…。虫が大好きな8歳の女の子として話題となったソフィアが、11歳の時に書いた実話絵本。巻末には彼女が描いた「虫のことをもっとしりたい人に」を収録。

<絵本-小学校高学年から>

『ポリぶくろ、1まい、すてた』 ミランダ・ポール/文 エリザベス・ズーノン/絵 藤田千枝/訳 さ・え・ら書房 2019.2 ¥1500

ガンビアの小さな村ンジャウの少女アイサトが、植物で編んだかごの代わりに使い始めたポリぶくろ。町で最近使われ始めたポリぶくろは、破れてしまえば地面に捨てられゴミに。その数はどんどん増え、それを食べたヤギは死に、ポリぶくろには蚊がわき悪臭を放つ。もうこれを放っておくわけにはいかない…。第66回青少年読書感想文全国コンクール小学校中学年の部課題図書。

<読み物-小学校低学年から>

『まいごのしにかみ』 いたうみく/作 田中映理/絵 理論社 2020.2 ¥1200

公園でかくれんぼをしている最中に死神さんに道を尋ねられたぼく。途中まで案内したものの、その家の人をあの世へ連れて行くという死神の仕事を知ると、どうしても最後まで案内することができない。聞くとこの死神さん、情にもろく仕事の成績はいつも最下位だという。そしてその日の夜、その死神さんが僕を迎えにやってきた…。人気作家による新作。

<読み物ー小学校中学年から>

『とりかえっこ』 泉啓子/作 東野さとる/絵 新日本出版社 2020.3 ¥1500

小4のみちるには2つ上の姉ののぞみがいいて、友だちのすみれからすてきなお姉さんだと思われていた。ある日、みちるとすみれが服を交換して着替えて遊んでいると、突然雷が鳴り、その瞬間中身まで入れ替わってしまう。困った二人は仕方なく違う家の子のふりをして過ごす、そこでお互いの秘密や完璧だと思っていたのぞみの苦悩に直面することになる。家族への思いがあふれる作品。

<読み物ー小学校高学年から>

『朝顔のハガキ』 山下みゆき/作 朝日学生新聞社 2020.3 ¥1200

同居するばあちゃん宛てに毎年届く朝顔が描かれたはがき。遊びにおいてと自分に向けられた言葉に気づいた小6の誠矢は、友だちにその住所の家への行き方を教えてもらい「ハガキの人」に会いに出かける。田舎で「ハガキの人」とゆったりと過ごすうちに、「ハガキの人」とばあちゃんの複雑な関係を知る。『朝日小学生新聞』連載を再構成。第10回朝日学生新聞社児童文学賞受賞作品。

<読み物ー中学生から>

『廉太郎ノオト』 谷津矢車/著 中央公論新社 2019.9 ¥1750

明治の西洋音楽黎明期、天才音楽家として期待された瀧廉太郎の24年の生涯を、歴史小説の俊英が鮮やかに描く。廉太郎の奏でるピアノ演奏やライバル・幸のバイオリンの音色を見事に文章化。時代を切り拓く若者たちの気概、演奏レベル向上への悩み、最後の作品『憾（うらみ）』に込められた廉太郎の思いが胸を打つ。第66回青少年読書感想文全国コンクール課題図書 高等学校の部。

『アーニャは、きっと来る』 マイケル・モーパーゴ/作 佐藤見果夢/訳 評論社 2020.3 ¥1400

第二次世界大戦下のフランス国境近くの村。羊飼いの少年ジョー（12歳）は、農場に隠れ住んでいたユダヤ人の男と出会い、秘密を共有することに。彼はユダヤ人の子供たちの国境越えを助けつつ、娘アーニャが来るのを待っているという。国境警備にやってきたドイツ軍、村人たちの変化、愛情深い家族の様子が、ジョーの目を通して細やかに描かれ、最後のクライマックスを迎える。

<ノンフィクションー小学校低学年から>

『くらべてよもうどうぶつの赤ちゃん 1 もりのどうぶつ』 かんちくたかこ/文 成島悦雄/監修 あかね書房 2020.3 ¥3000

オランウータンの赤ちゃんは、7年間、お母さんと二人で暮らすよ。コアラの赤ちゃんは、1年で一人で暮らし始めるよ。動物園で生まれた赤ちゃんの暮らし方や体のつくりなどを、動物のくらす場所ごとに紹介するシリーズ。周南市徳山動物園のインドタテガミヤマアラシの赤ちゃんも掲載。他に『そうげん・やまのどうぶつ』『みずべ・うみのどうぶつ』の全3巻。

<ノンフィクションー小学校中学年から>

『あったらいいな、こんな義手』 斎藤多加子/著 汐文社 2020.2 ¥2300

私の左手、つけかえられるの。「義手」っていうのよ。「義手」は手の代わりになる道具なのよ。義手の種類やしくみ、進化する義手や、使っている人や作っている人の様子を、写真や漫画で楽しく紹介。義手をつけている人への質問コーナーも掲載。「楽しく知ろうバリアフリーからだをたすける道具」シリーズ全3巻。他に『あったらいいな、こんな義足』『あったらいいな、こんな車いす』。

<ノンフィクションー小学校高学年から>

『生ごみからエネルギーをつくろう!』 多田千佳/ぶん 米林昌弘/え 農山漁村文化協会 2020.2 ¥1400

ペットボトルで牛の胃を作り、生ごみからメタンを作ろう!東日本大震災をきっかけに、生ごみで簡単にメタンを作りそのガス火を使う方法を広めたいと考えるようになった、大学院准教授による本。バイオメタンは東京パラリンピックの聖火の集火イベントにも採用予定。できたガスに火をつけてお湯を沸かしお茶を提供するエネカフェや、野菜栽培に使える液体肥料の活用方法も紹介。

<ノンフィクションー中学生から>

『13歳からのアート思考「自分だけの答え」が見つかる』 未永幸歩/著 ダイヤモンド社 2020.2 ¥1800

美術教師が、20世紀の6作品を取り上げ、探究の根を伸ばす方法を教える。できるだけリアルにサイコロを描いてみよう。描かれた絵の中でどれが一番リアルだと思う?ピカソの絵にダメ出しをしてみよう、といった授業を通して「リアル」とはという問いに対する自分なりの答えを見つけていく。自分だけのものの見方で答えを出し、新たな問いを生み出す「アート思考」の体験ができる書。

『めんどくさがりなきみのための文章教室』 はやみねかおる/著 飛鳥新社 2020.3 ¥1200

作文の苦手な中2の健が出会った黒猫は、元小説家に飼われていたらしい。この猫が、「何を書いていいかわからない」を一瞬で解決する方法や「うまい文章」をスラスラ書く方法、最後には、誰でも必ず小説が1冊書ける方法を「ぼく」に伝授する。ぼくと猫のユーモラスな会話やイラストに癒されながら、文章を書くコツが身につく。人気作家による具体的でわかりやすい文章教室。

<研究書>

『人生の1冊の絵本』 柳田邦男/著 岩波書店 2020.2 ¥980

人間の命や心を不条理に破壊する戦争、貧困などについて取材し続けたノンフィクション作家が、その仕事を総括する作品の一つとしてまとめた絵本論、絵本エッセイ。絵本は、大人自らの人生経験や心の問題を重ねて読むと深い味わいがあり、哲学や文学と並ぶ独自の表現ジャンルだと位置付け、自身の読書体験を踏まえて約150冊の絵本の魅力について語る。岩波新書 新赤版。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。